



ULTRA

DESIGNED BY *missiv*

アルミ製車いす
シン・ウルトラシリーズ

TRZ-086-02

自走用 **NA-SU7・Hi / NA-SU7・Lo**

介助用 **NAH-SU7・Hi / NAH-SU7・Lo**

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

目次はP38に掲載しております。

各部の名称

自走用

NA-SU7・Hi



自走用

NA-SU7・Lo



介助用

NAH-SU7・Hi



介助用

NAH-SU7・Lo



仕様・サイズ

項目 \ 機種	NA-SU7・Hi	NAH-SU7・Hi	NA-SU7・Lo	NAH-SU7・Lo
全長	106(104)cm	106(94)cm	102(96)cm	102(91)cm
全高	95～99(69～73)cm		91～95(62～66)cm	
全幅	60～64(31)cm	54～58(28)cm	56～60(31)cm	51～55(29)cm
前座高/後座高	調節式 43/41・45/43・47/45 cm		調節式 36/34・38/36・40/38 cm	
シート幅	調整式 42・44・46 cm		調整式 38・40・42 cm	
シート奥行	42cm		38cm	
アームサポート高	4段階調整式 24.5～30.5 cm			
バックサポート高	調整式 45・47・49 cm		調整式 43・45 cm	
バックサポート角度	96°※バックサポート折りたたみ金具上部＋10°			
キャスト	6インチPUキャスト輪＋高さ調節式フォーク		5インチPUキャスト輪＋高さ調節式フォーク	
駆動輪・主輪	22インチ<25-501>	14インチ	20インチ<25-451>	14インチ
重量※座クッション除く	16.7kg	14.7kg	15.7kg	14.3kg
専用座クッション重量	約0.5kg		約0.45kg	
耐荷重	120kg※積載分含む		100kg※積載分含む	
駆動輪取付けナット	インチねじ (UNF1/2-20山) を使用			

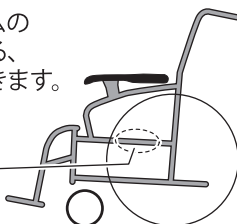
上記は座クッションを装着していない場合の値です。

()は折りたたみ時の寸法です。

製品の機種名は車いすメインフレームの
左側(乗車者様の左手側)に貼ってある、
機種名を記載したシールで確認ができます。

シール例(機種:NA-SU7・Hi)

NA-SU7・Hi



ご確認ください

自走用 NA-SU7・Hi / NA-SU7・Lo

自走用 NA-SU7・Hi／自走用 NA-SU7・Lo は乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。
この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート(背)の角度調整・座位の姿勢変換(昇降・旋回など)等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。

なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

介助用 NAH-SU7・Hi / NAH-SU7・Lo

介助用 NAH-SU7・Hi／介助用 NAH-SU7・Lo は介助者が操作する車いすです。
この車いすは、バックサポート(背)の角度調整・座位の姿勢変換(昇降・旋回など)等の機構がない、標準型の介助用車いすです。

なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

車いすのひろげかた

- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右に揺らしてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方向へ押し下げます。

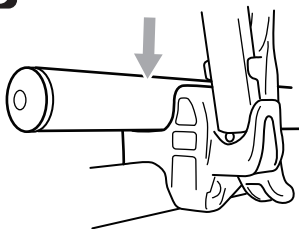


**注意
警告**



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

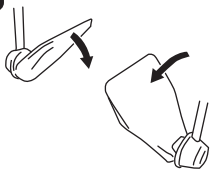
3



座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。

※背・座シートのベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。
その場合は、ベルトの調整をしておいてください。
(P 15～P 20参照)

4



フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

**注意
警告**



フットサポートを下方に回転させる際、フットサポートの下端部やフットサポートの裏側に手や指を入れないでください。危険です。

- 5** 座面の上に座クッションを装着してください。
(専用座クッションの装着方法についてはP 7を参照してください)

警告

座クッションを装着しない状態で製品を使用しないでください。事故やケガにつながるおそれがあります。



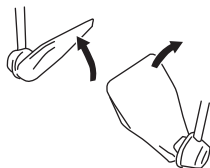
車いすの折りたたみかた

専用座クッションを装着したままでも折りたたみができます。



車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションとバックサポート（アウター）シートを車いすからはずしてください。座クッション及びバックサポート（アウター）シートをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションやバックサポート（アウター）シートに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。

1



フットサポートプレート
を上方へ回転させて収納
します。

2



座面の前から1本目のベルトと
5本目のベルトの中央部を持ち
上げます。

3



手押しハンドルを持って、
左右から押し縮めるように
折りたたんでください。

4



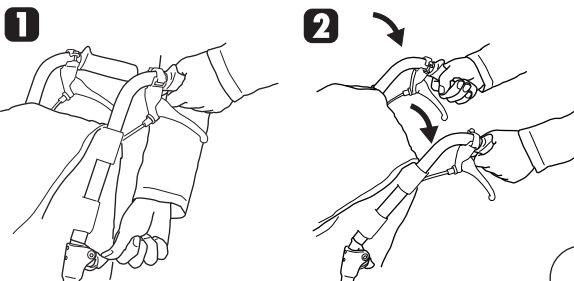
たたみにくい場合は、両サイドから駆動輪（主輪）の
車軸部分を内側に押してください。



スポークやフレームの間で手や指を挟まない
ように注意してください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右の手押しハンドルがしっかりとロックされたことを必ず確認してください。



警告
車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

● 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

駆動輪の操作のしかた（自走用の機種のみ）



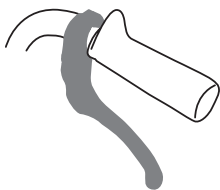
- 搭乗者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- 走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



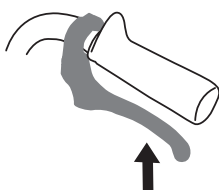
注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

介助ブレーキのかけかた



解除時



介助ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。

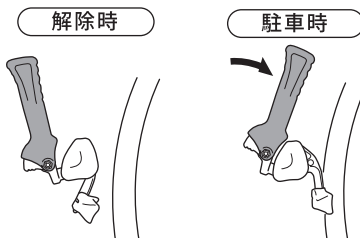


禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

駐車ブレーキのかけかた

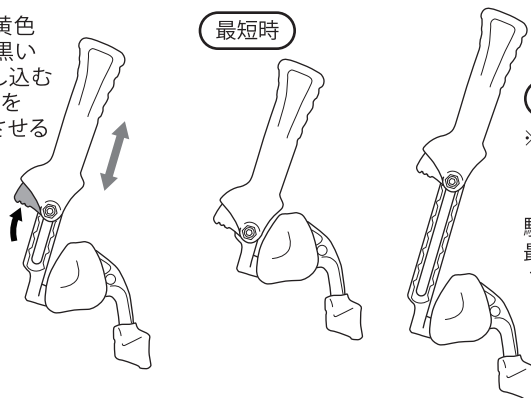
黄色のレバーを手で後方に引くと
駐車ブレーキがかかります。
レバーを前に戻した状態が解除です。



- 駐車ブレーキは左右両輪ともにしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 駐車ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指が当たらないように注意しながら、しずかに行ってください。
- 車いすに乗る際と車いすから降りる際には、搭乗者や介助者の身体が駐車ブレーキのレバーに触れないよう、十分にご注意ください。身体がレバーに触れることで、駐車ブレーキが解除されてしまい転倒したり、ケガをしたりするおそれがあります。

駐車ブレーキレバーの長さの調整のしかた

駐車ブレーキの黄色いレバーの下、黒いボタンを指で押し込むと、黄色のレバーを上下にスライドさせることができます。



最長時

※最短時より
+7 cm

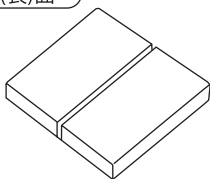
駐車ブレーキレバー長は
最短時から+7 cmまで、
1 cm単位で調整できます。



- 駐車ブレーキの黄色のレバー以外の場所を持って、駐車ブレーキをかけたり解除したりしないでください。指をはさんだりするなどの、思わぬケガのおそれがあります。
- 駐車ブレーキレバーを長くした場合は、車いすに乗る際や車いすから降りる際に、搭乗者や介助者の身体がレバーに接触しやすくなります。車いすに乗る際と車いすから降りる際には、搭乗者や介助者の身体が駐車ブレーキのレバーに触れないよう、十分にご注意ください。身体がレバーに触れることで、駐車ブレーキが解除されてしまい転倒したり、ケガをしたりするおそれがあります。

折りたたみ対応専用座クッションの使いかた

上(表)面



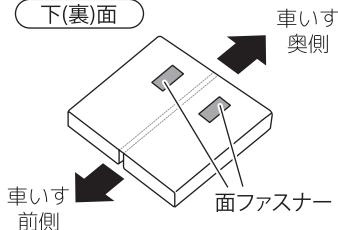
座クッション下(裏)面の面ファスナーと座面ベルトの面ファスナーをはり合わせてしっかりと固定します。



警告

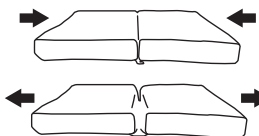
座クッションがしっかりと座面ベルトに固定されていない状態や座クッションのファスナーがしっかりと締められていない状態で座クッションを使用しないでください。

下(裏)面



座面の一番前のベルトの前端の位置に座クッションの前端の位置を合わせてください。

車いすのシート幅広さにあわせて、座クッションの幅を調整して使用してください。



車いすのシート幅が狭いときは、座クッションの左右をぴったりと近づけて使用します。

車いすのシート幅が広いときは、座クッションの左右を離して、座クッションの幅をひろげて使用します。



折りたたみ対応専用座クッションは、車いすに固定したままでも、車いすを折りたたむことができます。



注意

車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。

座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。



サイドガードについて(必ずご確認ください)



サイドガード

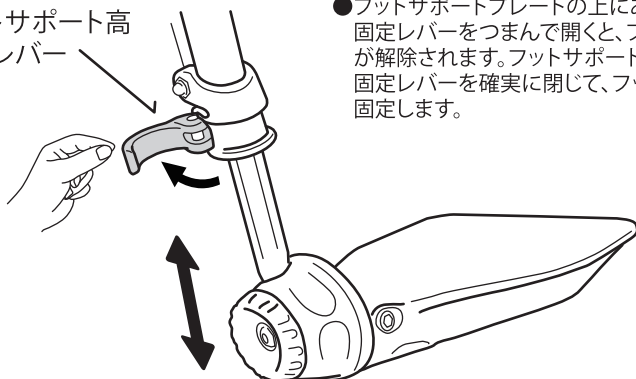


警告

サイドガードはメンテナンスのためにはずせる構造になっていますが、販売店以外の方はサイドガードをはずさないでください。サイドガードがはずれた状態での使用は事故や製品の破損につながるおそれがあります。サイドガードが車いすにしっかりと装着されていない場合や、サイドガードに亀裂や破損がある場合は使用を中止し、販売店までご相談ください。

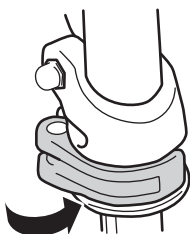
フットサポートの高さの調整のしかた

フットサポート高
固定レバー



- フットサポートプレートの上にある、フットサポート高固定レバーをつまんで開くと、フットサポート高の固定が解除されます。フットサポートの高さを合わせてから、固定レバーを確実に閉じて、フットサポートの高さを固定します。

調整後



固定レバーを確実に閉じてください。
フットサポートの高さがしっかりと固定されて
上下に動かないことを確認してください。

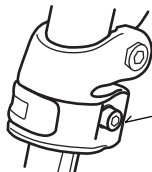


注意
警告

- 車いすに座った状態で搭乗者自身でフットサポート高を調整しないでください。前かがみの姿勢になることにより、転倒の危険があります。
- 調整後はフットサポートの高さがしっかりと固定されていることを確認してからご使用ください。
- フットサポートを下げすぎると、製品が破損したり、使用中に段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部を、地面から5 cm以上あげてください。
- フットサポート高固定レバーが完全に開いていない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ポストにキズがつき、調整がしにくくなる場合があります。
- フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。
- 使用中にフットサポートの裏側にキズがつき、鋭利な状態になっていることがあります。車いすへの乗り降りの際には、跳ね上げたフットサポートの裏側で、搭乗者の脚部や介助者の手のケガをしないよう、十分にご注意ください。

フットサポート高固定レバーを閉じてもフットサポートの高さが固定できない場合

固定レバーを確実に閉じても、
フットサポートが上下に動いてしまう場合は
レバー締付けのかたさを調整してください。
(調整作業は販売店にご依頼ください)

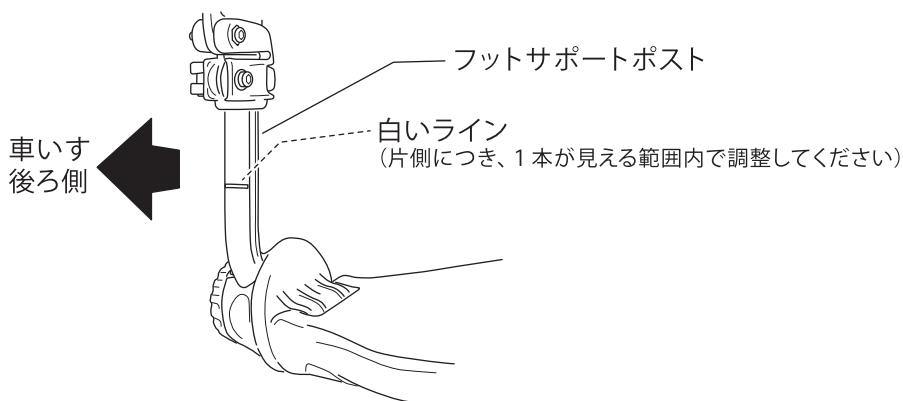


このボルトを
3 mmの六角レンチで
まわして、固さを
調整します。

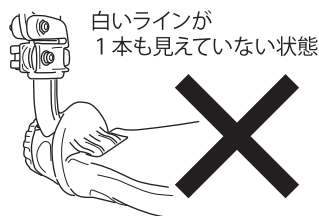
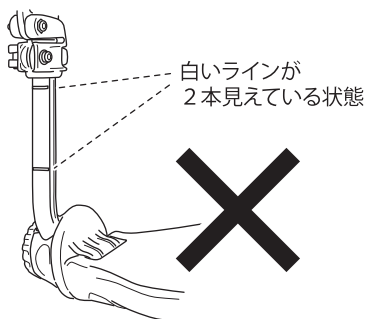


フットサポート高固定レバーの締付けの固さの調節につきましては、
専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

フットサポート高さの調整範囲ラインについて



フットサポートの高さは、フットサポートポストを車いす後ろ側から見て白いラインが片側につき1本ずつ見えている状態で調整してください。



白いラインが片側に2本見えている状態や、片側に1本も見えない状態での使用はしないでください。製品の破損や事故につながるおそれがあります。

フットサポートポストを車いす後ろ側から見て白いラインが片側につき1本ずつ見えていて、かつフットサポートの最下端部が、地面から5 cm以上あいている状態で調整を行ってください。



**注意
警告**

フットサポートの高さが上記範囲外及び、フットサポートの最下端部が地面から5 cm以上あいていない状態で使用しないでください。製品の破損や、転倒による事故のおそれがあります。

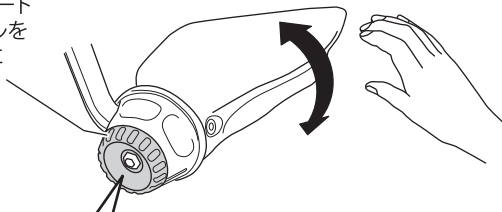
フットサポートプレートの角度の調節のしかた



フットサポートプレート角度の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

1

フットサポートプレート横の黄色いダイヤルを手で反時計まわりにまわします。
(まわしすぎないように注意してください)



フットサポートプレートを手で回転させることができるようになったところで、黄色いダイヤルを反時計まわりにまわすのを止めてください。

ダイヤルが手でまわらない場合は、フットサポートプレート横の黄色いダイヤルの中央部のボルトを5mmの六角レンチで少しゆるめます。
(ゆるめすぎないように注意してください)

黄色いダイヤルが手で回せるようになったところで、ボルトをゆるめるのを止めてください。

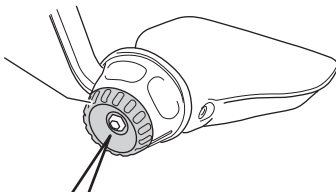
使用工具



5 mm
六角レンチ

2

フットサポートプレートを任意の角度にあわせたら、ダイヤルを手で時計まわりにまわします。
フットサポートプレートの角度が固定されます。ダイヤルは手でまわらなくなるまでまわしてください。



フットサポートプレート横の黄色いダイヤルを手でまわせないように固定したい場合は、黄色いダイヤルの中央部のボルトを5mmの六角レンチで締めます。

(極端に強く締めすぎると、部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)

使用工具

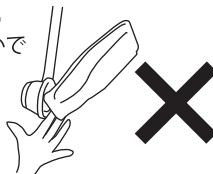


5 mm
六角レンチ



注意
警告

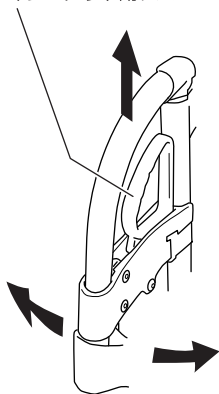
- 車いすに座った状態で搭乗者自身でフットサポートプレート角度を調節しないでください。前かがみの姿勢になることにより、転倒の危険があります。
- 調節後はフットサポートプレートがしっかりと固定されていることを確認してからご使用ください。
- フットサポートプレートと地面が近いと、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部を、地面から5 cm以上あげてください。
- 調節作業中にフットサポートプレートの跳ね上げ支点部分に手や指を入れないでください。危険です。



フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

開閉のしかた・はずしかた

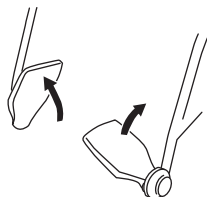
スイングイン・アウト用レバー



※搭乗者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

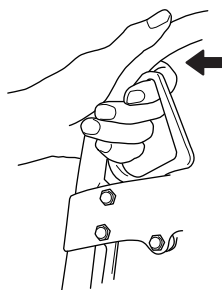
- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉（スイングイン&スイングアウト）ができます。

※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



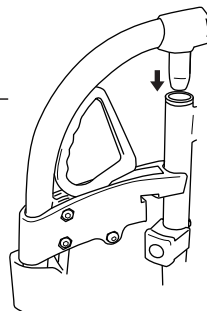
- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。

取付けかた



フット・レッグサポートの開閉・着脱操作は、フット・レッグサポートレバーを握りながら行います。

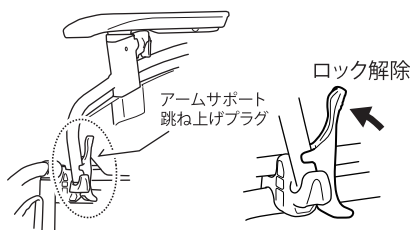
- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。



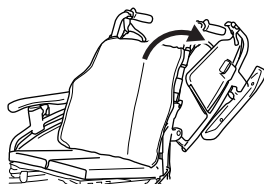
- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。
- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。（フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。）

アームサポートの跳ね上げかた・戻しかた

跳ね上げかた



サイドガード前端部のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを前方に押し、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上回転させるように上げてください。



戻しかた



戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、アームサポート跳ね上げプラグが受け部品にはまり、フレームが固定されるまで、アームサポートを押し下げてください。



- アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- バックサポートを折りたたんだ状態でアームサポートを跳ね上げないでください。
- 跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- 戻すときには、アームサポートとフレームや座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。



アームサポートが跳ね上げられている時は、左図の矢印部分に手や指を置かないでください。アームサポートを戻すときや、衝撃等でアームサポートが戻ってしまったときなどに、フレームで手指をはさんでケガをするおそれがあります。



搭乗者の移乗時以外には、アームサポートが完全にロックされていない状態で車いすを使用したり、放置したりしないでください。アームサポートに手をついてしまったり、アームサポートに身体や物があたってしまった際など、車いすの破損につながるだけでなく、アームサポートが急に下がり、搭乗者が転倒したり、身体を挟んでケガをするおそれがあります。

↑ アームサポートがロックされていない状態。この状態では使用しないでください。

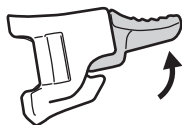
アームサポート高の調整のしかた



アームサポートが落ちないように、アームサポートを手で持ちながらロックを解除して調整をおこなってください。

- アームサポートを持ち、調整用レバーを上方に引き上げるか、前方に押し込んでロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用レバーをロック状態に戻し、アームサポートが固定されれば調整は完了です。

調整用レバー



レバーを上方に
引き上げた状態

ロック解除状態



レバーを前方に
押し込んだ状態

ロック解除状態



レバーが下向きに
おりていて、アームサ
ポートが固定されて
いる状態

ロック状態

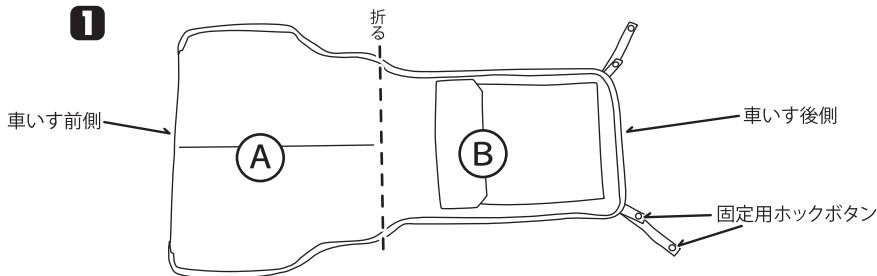


注意 警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・調整はアームサポートが落ちないようにアームサポートを持ちながらおこなってください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。
- ・調整後はアームサポートがしっかりと固定されていて、動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。

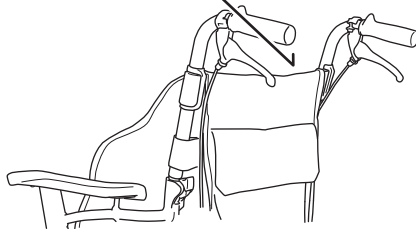
バックサポートシートの取り付けかた

1



バックサポートシートを上図のA面がインナーシートの前側、B面がインナーシートの後ろ側になるように、かぶせます。

折った部分がインナーシートのトップにあたるようにかぶせてください。



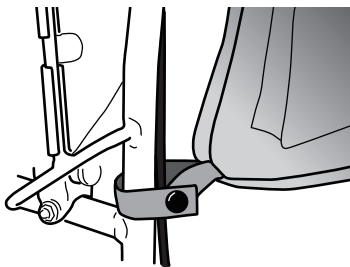
2

左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



注意

- バックサポートシートの取付けは駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 車輪のスPOークや各部で手指等を挟まないように注意してください。



取付け時





バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの装着について

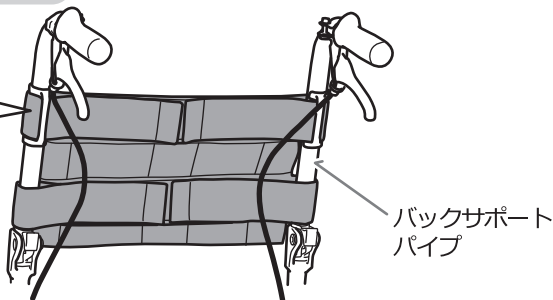
- バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトは必ず、下記の通りに正しく装着して使用してください。

バックサポート上部インナーシート



注意

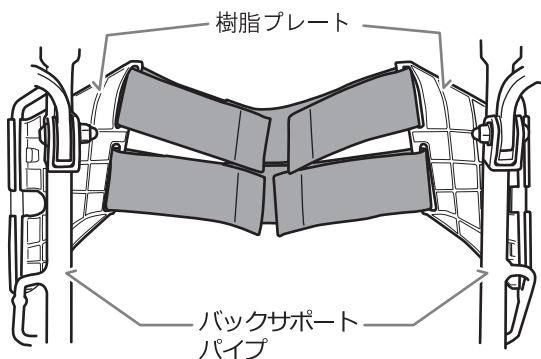
樹脂パーツがバックサポートパイプからはずれかけていないか、ご確認ください。



全てのベルトを、必ず、バックサポートパイプを巻き込んで取り付けて、面ファスナーでインナーシート面にしっかりと貼り合わせて固定してください。

バックサポート下部インナーベルト

全てのベルトを、必ず、樹脂プレートの穴を巻き込んで取り付けて、面ファスナーでしっかりと貼り合わせて固定してください。



注意

樹脂プレートがフレームからはずれかけていないか、ご確認ください。

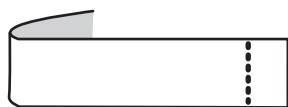


警告

バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトが正しく装着されていない状態で搭乗した場合、落下や各部の誤動作等で重大な事故につながるおそれがあります。

バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの設定のしかた

バックサポート上部の設定



面ファスナーつきベルトの赤い縫い糸のライン(左図)を、
下図で示す赤い縫い糸の設定用ラインに合わせて、
面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。
車いすの設定シート幅により、インナーシートのどの
ラインと合わせるのかがわかります。

このラインをインナーシート上の設定ラインに合わせて。

シート幅がもっともせまい設定(下表①)時の
設定ライン(中央から1本目)

シート幅が中間の設定(下表②)時の
設定ライン(中央から2本目)

シート幅がもっともひろい設定(下表③)時の
設定ライン(中央から3本目)

車いす外側



車いす
上側

シート幅がもっともせまい設定(下表①)時の
設定ライン(中央から1本目)

シート幅が中間の設定(下表②)時の
設定ライン(中央から2本目)

シート幅がもっともひろい設定(下表③)時の
設定ライン(中央から3本目)

車いす外側



シート幅がもっともひろい設定(下表③)時の
設定ライン(中央から3本目)

シート幅が中間の設定(下表②)時の
設定ライン(中央から2本目)

シート幅がもっともせまい設定(下表①)時の
設定ライン(中央から1本目)

車いす
下側

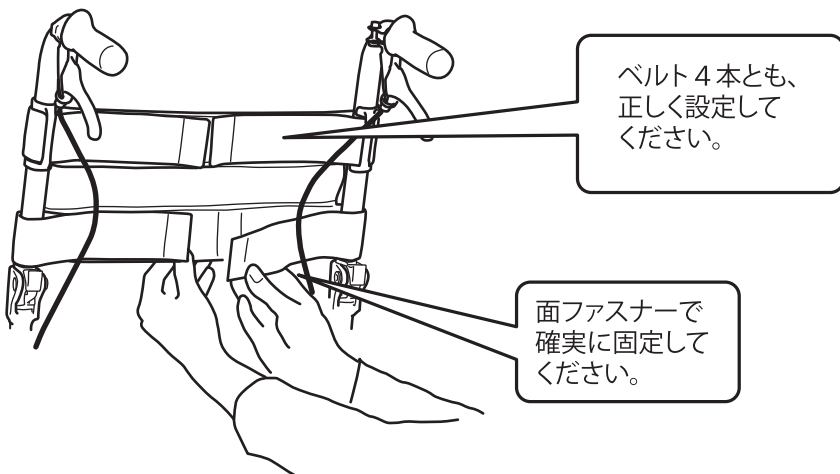


シート幅がもっともひろい設定(下表③)時の
設定ライン(中央から3本目)

シート幅が中間の設定(下表②)時の
設定ライン(中央から2本目)

シート幅がもっともせまい設定(下表①)時の
設定ライン(中央から1本目)

機種	①シート幅がもっともせまい設定	②シート幅が中間の設定	③シート幅がもっともひろい設定
NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	シート幅 42cm	シート幅 44cm	シート幅 46cm
NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo	シート幅 38cm	シート幅 40cm	シート幅 42cm



全ての上部インナーシート、下部インナーベルトが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、バックサポート(アウター)シートを取りつけます。

※下部インナーベルトの設定方法はP 18-19でご確認ください

※バックサポート(アウター)シートの取り付けかたはP 14でご確認ください

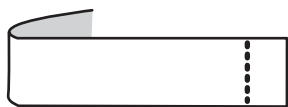


注意
警告

- シートやベルトを通して樹脂パーツがフレームにしっかりと装着されていることをご確認ください。
- バックサポート上部が使用者が搭乗した状態で調整する場合、ベルトは必ず1本ずつはずして調整してください。一度に2本以上のベルトの面ファスナーをはずすと、搭乗者が落下シケガをするおそれがあります。
- バックサポート下部が使用者が搭乗した状態で調整する場合、バックサポート上部のベルトをはずさずに調整してください。バックサポート上部とバックサポート下部を同時にはずすと、搭乗者が落下シケガをするおそれがあります。
- バックサポートの設定及び調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ベルトが破れていたり、樹脂パーツが破損していたり、面ファスナーがしっかりと固定できない場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。

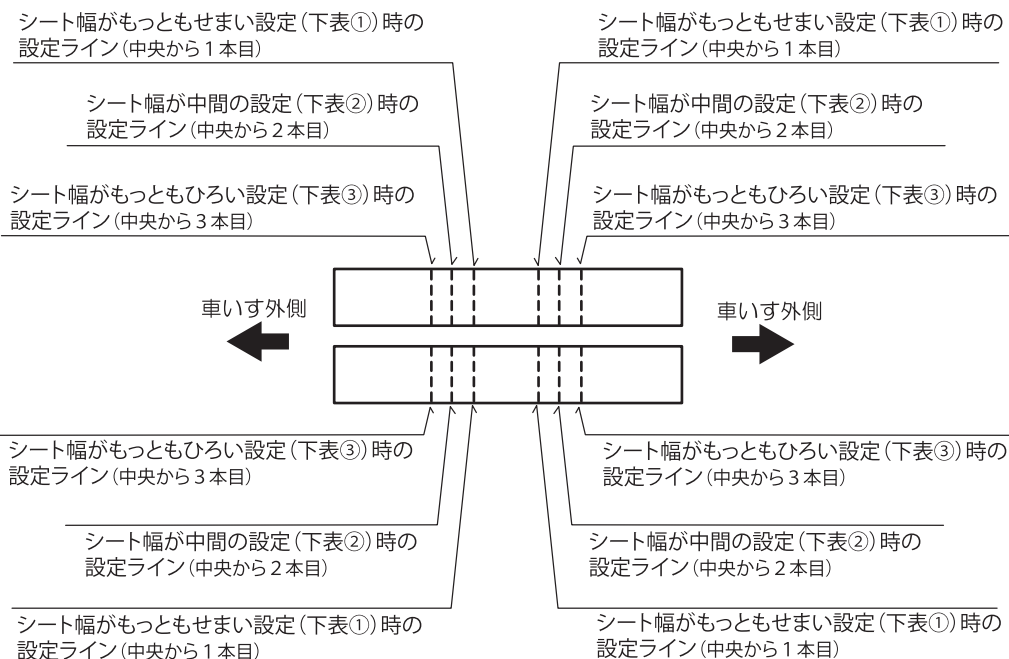
バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの設定のしかた

バックサポート下部の設定

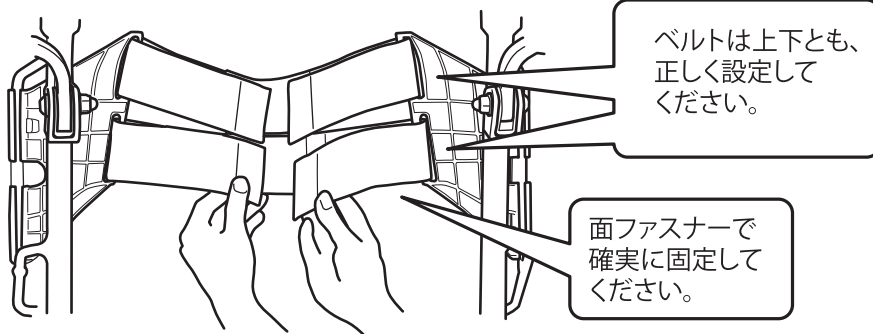


面ファスナーつきベルトの赤い縫い糸のライン(左図)を、下図で示す赤い縫い糸の設定用ラインに合わせて、面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。
車いすの設定シート幅により、インナーシートのどのラインと合わせるのかがわかります。

このラインをインナーシート上の設定ラインに合わせて。



機種	①シート幅がもっともせまい設定	②シート幅が中間の設定	③シート幅がもっともひろい設定
NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	シート幅 42cm	シート幅 44cm	シート幅 46cm
NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo	シート幅 38cm	シート幅 40cm	シート幅 42cm



全ての上部インナーシート、下部インナーのベルトが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、バックサポート（アウター）シートを取りつけます。

※上部インナーベルトの設定方法はP 16-17でご確認ください

※バックサポート（アウター）シートの取付けかたはP 14でご確認ください



**注意
警告**

- シートやベルトを通して樹脂パーツがフレームにしっかりと装着されていることをご確認ください。
- バックサポート上部が使用者が搭乗した状態で調整する場合、ベルトは必ず1本ずつはずして調整してください。一度に2本以上のベルトの面ファスナーをはずすと、搭乗者が落下しケガをするおそれがあります。
- バックサポート下部が使用者が搭乗した状態で調整する場合、バックサポート上部のベルトをはずさずに調整してください。バックサポート上部とバックサポート下部を同時にはずすと、搭乗者が落下しケガをするおそれがあります。
- バックサポートの設定及び調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ベルトが破れていたり、樹脂パーツが破損していたり、面ファスナーがしっかりと固定できない場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。

座面の張り具合の調整のしかた

- 1** 座クッションをはずしてください。



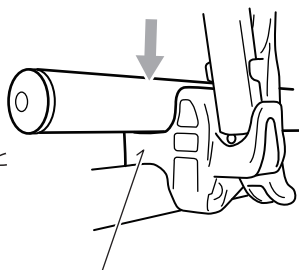
任意にて面ファスナーベルトの緩み具合を調整し、しっかり面ファスナーを固定してください。

- 3** 座クッションを取付けて完了です。
※座クッションは、しっかりと取付けてください。
※専用座クッションの取付けにつきましては P 7 を参照してください。



注意

- 人が乗車していない状態で作業してください。落下してケガをするおそれがあります。
- ベルトを緩めすぎると、折りたたみフレーム部と臀部があたるおそれがあります。
- インナーベルトが正しく取付けられて、面ファスナーでしっかり貼り合わされていることを確認してください。
- 座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしておしてください。



シートパイプ受け

MEMO

シート幅の調整のしかた



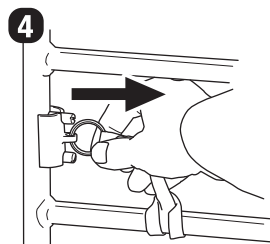
座クッションとバックサポートシートを車いすからはずします。



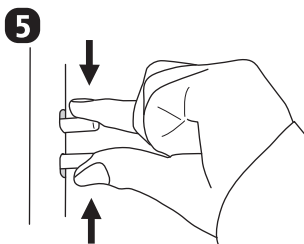
座・背上部ベルトの面ファスナーをはずします。



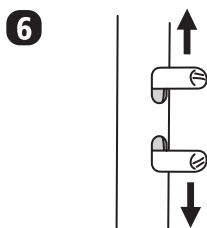
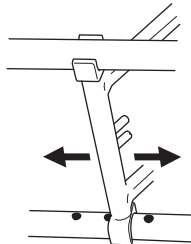
手押ハンドルを地面につけるように車いすを立てます。



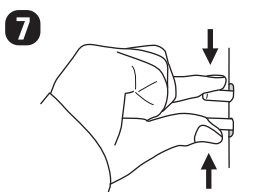
折りたたみフレーム下部のロックピンカバーを引っばってはずします。



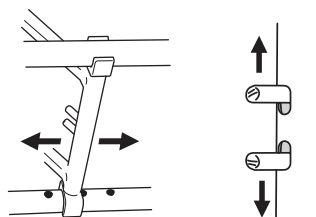
ロックピンを握り、ロックを解除して、希望するシート幅にあった穴位置(下図A参照)まで、折りたたみフレーム下部パイプをスライドさせます。



ロックピンによるロックが前後両方ともしっかりとかかっていることを必ず確認してください。

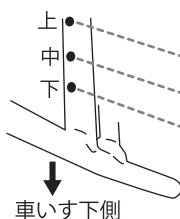


反対側の折りたたみフレーム下部パイプも、5・6と同じ手順でスライドさせてください。



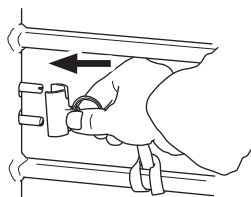
! 必ず、左右同じ高さの穴位置に設定してください。

図A シート幅と穴位置の関係



	NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo
上	シート幅 46 cm 設定用	シート幅 42 cm 設定用
中	シート幅 44 cm 設定用	シート幅 40 cm 設定用
下	シート幅 42 cm 設定用	シート幅 38 cm 設定用

8



ロックピンカバーをしっかりと押し込んでください。左右2箇所とも確実に装着してください。



確認してください！



ロックピンカバーのひもが、折りたたみフレームに確実に巻きつけられているか。

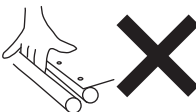
ロックピンカバーが確実に奥まではまり込んでいるか。

9

車いすを起し、座面下のパイプを左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収めます。



注意
警告



座面下のパイプを押し下げる際、パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

10

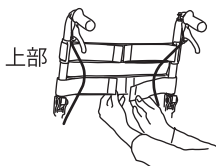
座面の全てのベルトと座奥ベルトを張り、面ファスナー貼り合わせてしっかりと固定してください。



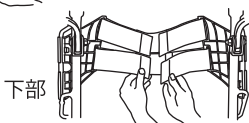
座面ベルトの調整のしかたはP20を参照してください。

11

バックサポートインナーシート(上部と下部)を調整したシート幅に合わせて設定し、面ファスナーをしっかりと固定します。



上部



下部

バックサポートインナーシート(上部と下部)の調整はP16～P19を参照してください。

12

バックサポートシートと座クッションを装着して完了です。



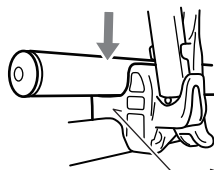
バックサポートシートの装着はP14を参照してください。

座クッションの装着はP7を参照してください。



注意
警告

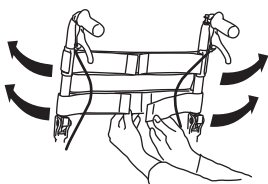
- 人が乗車していない状態で作業してください。乗車した状態で調整をすると、搭乗者が落下してケガをするおそれがあります。
- インナーベルトが正しく取付けられて、面ファスナーでしっかり貼り合わされていることを確認してください。
- 座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしておいてください。



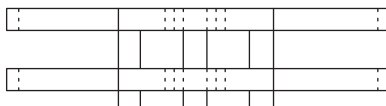
シートパイプ
受け

バックサポート高の調整のしかた

- 1 バックサポートシートをはずし、続けてバックサポート上部インナーシートを車いすからはずします。

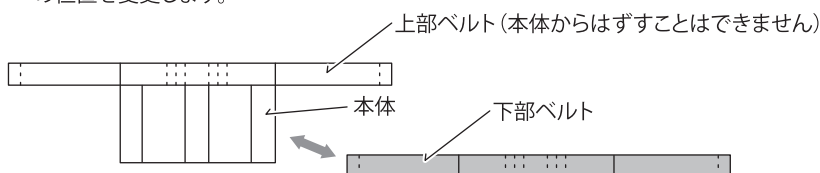


バックサポート上部インナーシートのベルトの面ファスナーをすべてはずします



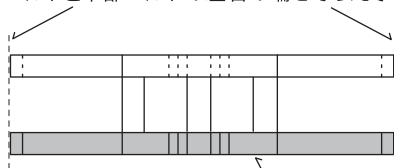
バックサポート上部インナーシートを車いすから取りはずしてください

- 2 機種と設定するバックサポート高にあわせて、バックサポート上部インナーシートの下部ベルトの位置を変更します。



NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo
バックサポート高 49 cm 設定時	バックサポート高 45 cm 設定時

上部ベルトと下部ベルトの左右の端をそろえてください

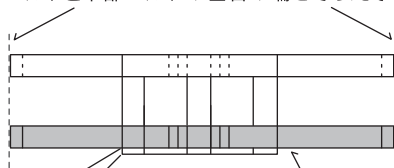


左図にあわせて、バックサポート上部インナーシートに下部ベルトを面ファスナーでしっかりと固定してください。

本体の下端と下部ベルトの下端の高さをぴったり合わせてください。

NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo
バックサポート高 47 cm 設定時	バックサポート高 43 cm 設定時

上部ベルトと下部ベルトの左右の端をそろえてください



左図にあわせて、バックサポート上部インナーシートに下部ベルトを面ファスナーでしっかりと固定してください。

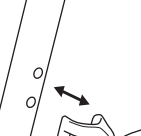
2cm ↓ 下部ベルトの下端の高さが本体の下端から 2 cm 高くなるように固定してください。

バックサポート高 4.5 cm 設定時

下部ベルトの下端の高さが本体の下端から4 cm高くなるように固定してください。

3

バックサポート上部
バックサポートパイ
設定
樹脂
取り



車いす外側

カーブ形状部分が長い方が車いすの外側になるように取り付けてください。

この突起部分をバックサポートの穴にしっかりと差し込みます

樹脂パーツ

車いす
上側

A large, solid black arrow pointing upwards, indicating the direction of the '車いす上側' (Wheelchair side) label.

車いす
上側

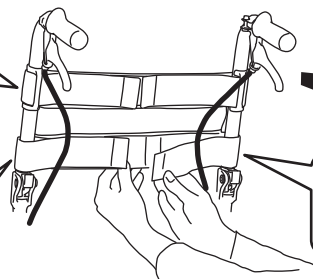
A thick black arrow pointing upwards, indicating the 'top' side of the wheelchair.

バックサポート高の調整のしかた(つづき)

- 4** バックサポート上部インナーシートを車いすに装着します。

上部ベルトはバックサポートの前側からバックサポートパイプに巻きつけて、樹脂パーツの隙間を通して固定してください。

下部ベルトはバックサポートの前側からバックサポートパイプに巻きつけて固定してください。



車いす後ろ側

介助ブレーキワイヤーをベルトで挟み込まないように装着してください。

※上部インナーベルトの設定方法はP 16-17でご確認ください

- 5** 全ての上部インナーシート、下部インナーのベルトが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、バックサポート(アウター)シートを取り付けます。

※バックサポート(アウター)シートの取り付けかたはP 14でご確認ください



注意
警告

- 人が乗車していない状態で作業してください。乗車した状態で調整をすると、搭乗者が落下してケガをするおそれがあります。
- バックサポートは左右が同じ高さになるように設定してください。バックサポートの高さが左右で異なる状態で使用すると、製品の破損や事故のおそれがあります。
- 上部インナーシートの上部ベルトを通して樹脂パーツがフレームにしっかりと、正しく装着されていることをご確認ください。
- バックサポート高の調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ベルトが破れていたり、樹脂パーツが破損していたり、面ファスナーがしっかりと固定できない場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



バックサポート高の調整につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

ハンドリムと駆動輪リムの間隔のひろげかた (NA-SU7・Hi用オプション)

※NA-SU7・Hi のみ

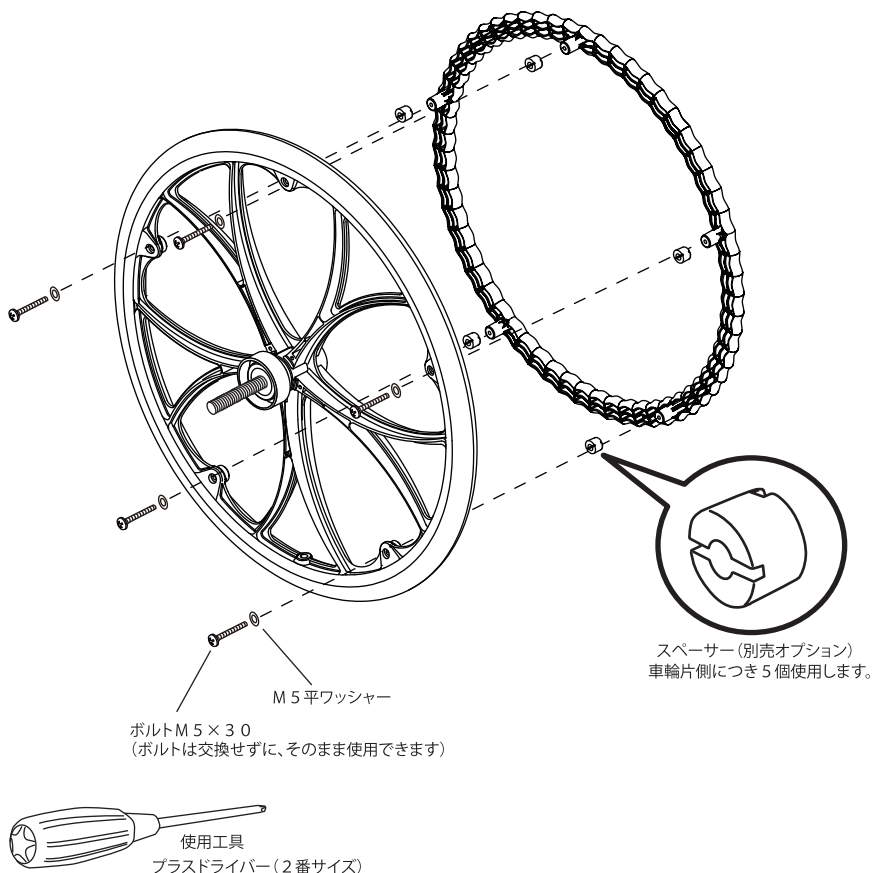


ハンドリムと駆動輪リムの間隔寸法の変更作業につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

ハンドリムと駆動輪リム間隔寸法の変更作業は人が車いすに乗車していない状態で行ってください。また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



ハンドリムを駆動輪に固定しているボルトを緩めてはずし、ハンドリムとホイールの間にスペーサー (別売オプション部品) を挟んで固定し直すことで、ハンドリムと駆動輪リムの間隔を12mm (標準仕様) から22mmにひろげることができます。

ハンドリムと駆動輪リムの間隔の変更のしかた (NA-SU7・Loのみ)

※NA-SU7・Lo のみ

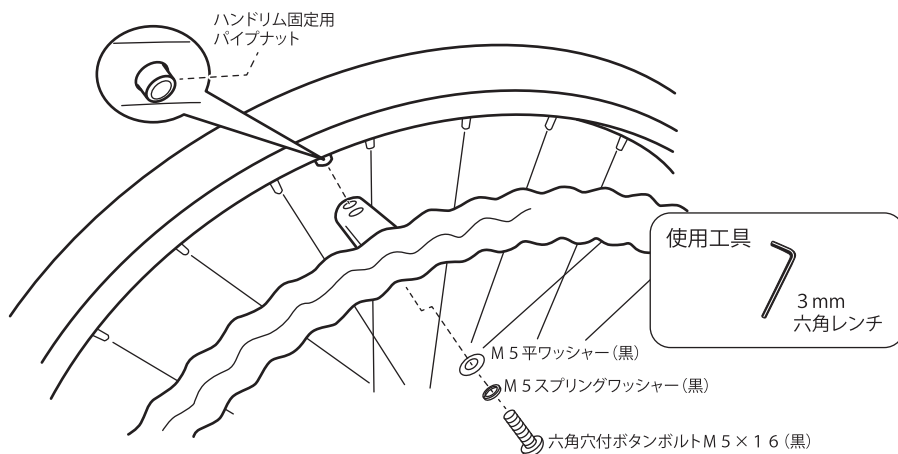


ハンドリムと駆動輪リムの間隔寸法の変更作業につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



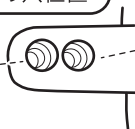
注意

ハンドリムと駆動輪リム間隔寸法の変更作業は人が車いすに乗りしていない状態で行ってください。また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



ハンドリムのピン部分の穴位置

ハンドリムと
駆動輪リムの
間隔20mm



ハンドリムと
駆動輪リムの
間隔10mm
(標準設定)

ハンドリムを駆動輪に固定しているボルトを緩めてはずし(駆動輪片側につき4カ所)、ハンドリムのピン部分の穴位置を変更して、ハンドリム固定用カラーパイプに組付けし直すことで、ハンドリムと駆動輪リムの間隔を10mm(標準設定)もしくは20mmに変更することができます。



注意

- ハンドリムのピン部分の穴位置は、車輪片側につき、4カ所とも同じ穴位置で組付けしてください。
- 組付け後は、すべてのピンがボルトでしっかりと固定されていることを確認してください。

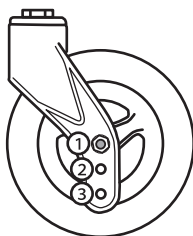


禁止

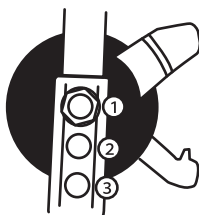
NA-SU7・Loの駆動輪からハンドリムをはずしての使用はしないでください。

座面高の調節のしかた

キャスト車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪・主輪を固定している車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。



キャスト



駆動輪・主輪

座面高と穴位置の関係

(前:前座高 / 後:後座高)

穴位置
↓

	NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo
①	前 4 3 cm / 後 4 1 cm	前 3 6 cm / 後 3 4 cm
②	前 4 5 cm / 後 4 3 cm	前 3 8 cm / 後 3 6 cm
③	前 4 7 cm / 後 4 5 cm	前 4 0 cm / 後 3 8 cm

キャスト車輪取付穴位置変更

使用工具

13mmスパナ 1本
5mm六角レンチ 1本

駆動輪・主輪取付穴位置変更

使用工具

NA-SU7・Hi NAH-SU7・Hi	NA-SU7・Lo NAH-SU7・Lo
19mmスパナ 1本 19mmソケットレンチ (もしくはボックスレンチ) 1本	19mmスパナ 1本 8mm六角レンチ 1本

キャスト車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。

※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節(P30参照)も必要となります。



禁止

キャストと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組み合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり、製品の破損や事故のおそれがあります。



注意
警告

- 車軸ボルト・ナット類はしっかり締めてください。取付けが不完全な場合、車輪が脱落し、事故につながるおそれがあります。
- 車軸ボルトのワッシャー類・キャスト車軸部カバー・は元通りにセットしてください。
- 駆動輪スペーサー(NA-SU7・Hi / NA-SU7・Loに付属)は元通りにセットしてください(NAH-SU7・Hi / NAH-SU7・Loでは駆動輪スペーサーは使用しません)。



キャスト車軸部カバー



ドラムブレーキ金具とフレームの
車軸ラックの間に挟みこみます。

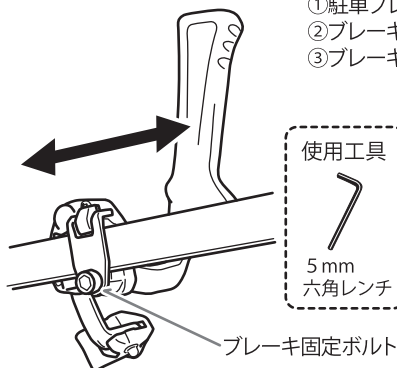
キャスト車軸部カバー

NA-SU7・Hi / NA-SU7・Loで使用



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

駐車ブレーキの調節方法



- ① 駐車ブレーキのブレーキ固定ボルトを緩めます。
- ② ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ ブレーキ固定ボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



**注意
警告**

使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ固定ボルトとブレーキ固定プレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタなど目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れる可能性のある場所や、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。

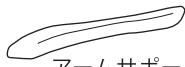


ウレタン素材には 寿命 があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスト輪

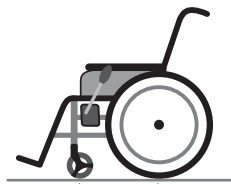


アームサポート
パッド
など



床材へのゴム汚染についてのご注意

- 塩化ビニール製のタイルやクッションフロア等は、ゴム製品が接することで、床材の成分とゴムの化学反応により、ゴム汚染とよばれる床の変色が発生する場合があります。
- ゴム製キャスト車輪やゴム製後輪タイヤを装着している車いすを塩化ビニール製の床で使用する場合、床に直接ゴム部分が触れないように、カーペットを敷くなどの対策をとってください。
- 床材へのゴム汚染の発生は一般的な事象であり、製品の瑕疵（かし）に起因するものではありません。



キャスト車輪
(ゴム製)

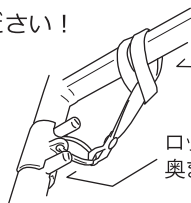
後輪タイヤ
(ゴム製)

使用前点検(必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適切かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
 - ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
 - シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
 - 駆動輪・主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、ご確認ください。
 - 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
 - バックサポートのインナーシートとアウターシート、座クッションが正しくしっかりと取付けられているかご確認ください。
 - 左右のサイドガードがしっかりと装着されているかご確認ください。
 - 各部パーツのはずれ、変形、破損がないかご確認ください。
- 左右のロックピンカバーが確実に装着されているか、ロックピンカバーのひもが折りたたみフレームに確実に巻きつけられているか、ご確認ください。



確認してください！



ロックピンカバーのひもが、
折りたたみフレームに確実に
巻きつけられているか。

ロックピンカバーが確実に
奥まではまり込んでいるか。

※左右のロックピンカバーや紐が確実に装着されていないと、
駆動輪(主輪)に巻き込まれる可能性があり、危険です。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに
販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。



注意・警告

主に製品を使用する前にご注意くださいことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取扱業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト・パーツ類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。座クッション及びバックサポートアウターシートの中材が変形するおそれがあります。また、フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座することで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。



注意・警告

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状況が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状況で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの設定が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつく張りすぎても、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がなく充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。(例: 足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようご注意ください)。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター・オートスロープ・動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用する際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 使用中にフットサポートの裏側にキズがつき、鋭利な状態になっていることがあります。車いすへの乗り降りの際には、跳ね上げたフットサポートの裏側で、搭乗者の脚部や介助者の手をケガしないよう、十分にご注意ください。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。

その他にご注意をいただくこと

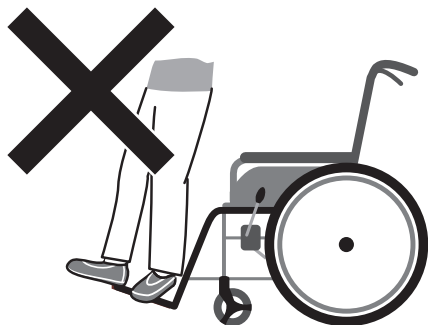
- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れないください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいたりときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

車いすを安全にご使用いただくための注意事項



禁止

フットサポートの上に立たないでください。

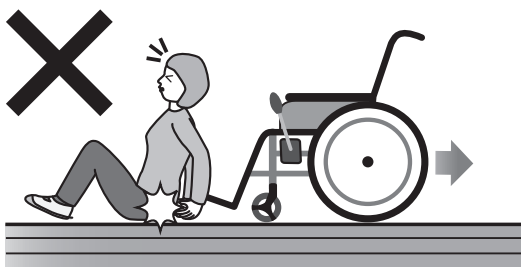


車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。



注意
警告

車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実に
かけて行ってください。

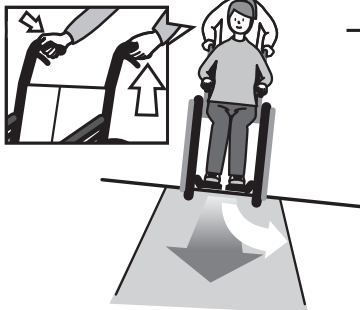
- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、
ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる



車いすの使用のポイント

押し方

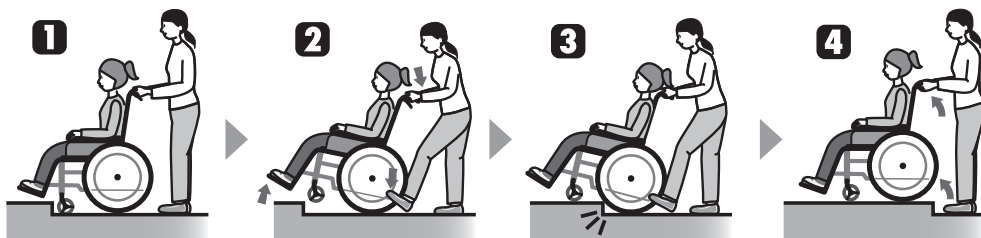
介助者が車いすのグリップを握り、進行方向へ押します。急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。声をかけるなどの配慮をお願いします。



■外での注意（傾いた道での押し方）

傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

段 差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** グリップを引きながら同時にティップingleバーを踏み、キャストを上げます。
- 3** 段差に駆動輪（主輪）を当てます。
- 4** グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

坂 道



上がるときは前向きで。



下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、搭乗者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

溝や踏切

キャストや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャストや駆動輪・主輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。溝の手前でキャストを持ち上げ、通過する方法もあります。



グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図のようにグレーチングに対して斜めに進入してください。



車いすのトラブルシューティング

故障かな?と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症 状	原 因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	駐車ブレーキが解除されていない。	駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが 効かない。	ブレーキのタイヤ押さえ金具が汚れている。	タイヤ押さえ金具の汚れを拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) タイヤ押さえ金具とタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが 効かない。	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 車軸部ドラム押さえバンドの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたた めない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげら れない。	主輪・駆動輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	バックサポートのインナーベルトを張りすぎ ている。	張り調整をしておいて、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの挟みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

MEMO

目次

P 1	...	各部の名称
P 2	...	仕様・サイズ ご確認ください。
P 3	...	車いすのひろげかた
P 4	...	車いすの折りたたみかた
P 5	...	バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた 駆動輪の操作のしかた（自走用の機種のみ） 介助ブレーキのかけかた
P 6	...	駐車ブレーキのかけかた 駐車ブレーキレバーの長さの調整のしかた
P 7	...	折りたたみ対応専用座クッションの使いかた サイドガードについて（必ずご確認ください）
P 8	...	フットサポートの高さの調整のしかた
P 10	...	フットサポートプレートの角度の調節のしかた
P 11	...	フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた
P 12	...	アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた
P 13	...	アームサポート高の調整のしかた
P 14	...	バックサポートシートの取り付けかた
P 15	...	バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの装着について
P 16	...	バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの設定のしかた
P 20	...	座面の張り具合の調整のしかた
P 22	...	シート幅の調整のしかた
P 24	...	バックサポート高の調整のしかた
P 27	...	ハンドリムと駆動輪リムの間隔のひろげかた（NA-SU7・Hi用オプション）
P 28	...	ハンドリムと駆動輪リムの間隔の変更のしかた（NA-SU7・Loのみ）
P 29	...	座面高の調節のしかた
P 30	...	駐車ブレーキの調節方法 メンテナンス・保管方法 ウレタン素材には寿命があります 床材へのゴム汚染についてご注意ください
P 31	...	使用前点検（必ず行ってください） 注意・警告
P 33	...	車いすを安全にご使用いただくための注意事項
P 34	...	車いすの使用のポイント
P 36	...	車いすのトラブルシューティング
P 38	...	目次
P 39	...	保証規定・品質保証書

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後 1 年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書でご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上記記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1 年間」無償にて修理いたします。

機 種			
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) ご氏名	TEL	
お買い上げ日	年	日	有効年月日 年 月 日まで
販 売 店	見 本		
総販売元			
製 造 元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現 3 5 番地の 2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市中村権現 3 5 番地の 2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787
東京営業所 〒112-0011 東京都文京区千石 2 丁目 2 - 1
TEL<03>3943-5200(代) FAX<03>3943-5222
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6 - 1 6 - 1 0
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町 2 丁目 3 - 8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。

TRZ-086-02